

事象や行為などを表す多様な語句 通過率47.7%

この設問は、平成 22 年度全国学力・学習状況調査と同じ問題である。平成 24 年度の類似問題の結果からも、日常生活であまり使わない語句の意味を理解して、文脈の中で適切に使うことに課題がある。

■ 同一問題

平成 22 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 10三ウ
 広島県 64.0% (全国 63.5%)

■ 類似問題

平成 24 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 7三
 ・弟子を手塩にかけて育てる 60.6% (60.6%)
 ・たなびく雲の間から春の光がもれている 44.1% (46.9%)
 ・いかなる困難にもひるむことなく仕事を進めた 93.2% (93.5%)
 ※ () 内は全国平均

次の文では、() 中のア、イ、エのどれが適切ですか。最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。
 わたしが健康になったのは、(ア)ひとえにイほのかにウいちずにエむやみに(イ)母のおかげです。

| 主な誤答と無解答 | 割合 (%) |
|----------|--------|
| ウ | 35.9 |
| イ | 14.7 |
| エ | 0.9 |
| 無解答 | 0.7 |

誤答ウ・イ・エ

言葉の意味を知らない。文脈の中で言葉を捉えていない。【51.5%】

➡ 辞書を活用させたり、言葉を吟味させたりしていますか？

- 分からない言葉に出会ったとき、常に辞書を引いて言葉の意味を確かめる習慣を付けさせましょう。

小学校から辞書を引く習慣を付けさせます。辞書を引くたびに引いた言葉のページに付箋を付けさせます。どれだけたくさんの言葉に触れたかを目に見える形で残すことにより、子どもの意欲が高まり、辞書を引く習慣が付きます。中学校における成果にもつながっています。
 (呉市立蒲刈小学校)



- 生徒の語感を磨き語彙を豊かにさせる指導を充実させましょう。例えば第2学年では「類義語と対義語」を学びます。日頃の日記・作文指導においても、類義語と比較させ「より適切な言葉はないか」を生徒自身に検討させる指導も必要です。

➡ 推薦図書リストを作成して、生徒に本を読ませていますか？

平成 24 年度の生徒質問紙において、「1ヶ月に何冊ぐらい本を読んでいますか」の問いに対して、「読んでいない」と回答する生徒が県全体では 14.6% もいます。

学校独自の推薦図書リストを作成して本と出会うきっかけを作ったり、生徒自身に目標冊数を決めて読ませたりするなど、生徒が自分から本を読みたくするための指導をしましょう。

段落相互の関係の把握 通過率51.5%

この設問は、平成22年度から出題しており、継続した課題である。

調査結果から、文章構成に注意しながら段落相互の関係を捉える力の定着が不十分であることが分かる。

<経年比較>

| 年度 | 通過率 (%) |
|--------|---------|
| 平成22年度 | 49.9 |
| 平成23年度 | 56.2 |
| 平成24年度 | 51.5 |

一方、フイトクロムが青、あるいはみどり色の光を吸収すると、「待て」というサインが出されます。植物は、その方向をさけてのびていきます。

次の文章は、文章中のどこに入りますか。文章のつながりを考え、文章中の「ア」「オ」の中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

野田道子 「植物は考える生き物!」による
※ 資料編 参照

| 主な誤答と無解答 | 割合 (%) |
|----------|--------|
| ウ | 36.3 |
| 無解答 | 1.3 |

誤答ウ 前の段落を選んでいる。【36.3%】

➡ 生徒は文章の構成をつかんでいますか？

フイトクロムには赤い光を吸収するものと青い光を吸収するものがある。一方、フイトクロムが青、あるいはみどり色の日光にのびていく。赤い光を吸収すると赤い光のきた方向にのびていく。

筆者が自分の主張を分かりやすく伝えるために、どのように文章構成をしているのかを意識しながら読ませることが必要です。

- 筆者の主張はどの段落に書かれているか
- 問いと答え、実験と結果はどの段落か
- 具体例、引用等はどの段落か
- 複数の文から成り立っている段落では、どの文が最も重要か 等

➡ 指示語や接続語等を意識させていますか？

文章を漠然と読ませるのではなく、文章構成をつかむために指示語や接続語等に線を引かせる、関連する言葉に→を書かせて生徒自身に文書の構成を意識させるなどの工夫をしましょう。